

アジア政経学会 2024 年次大会 INAF セッション参加報告

陳 柏宇

INAF 常任理事・新潟県立大学国際関係学部准教授

The 24th Institute for Northeast Asian Futures Seminar

統一テーマ：

戦後台湾のトップ・リーダーたちの対日認識と政策：国民党を中心に

日時：2024 年 6 月 15 日（土）10:00～12:00

司会：李 鋼哲 東北亜未来構想研究所 (INAF) 所長

報告者 1：段 瑞聡（慶應義塾大学教授）

タイトル：佐藤栄作の台湾訪問と蒋介石の対応

報告者 2：陳 柏宇（新潟県立大学准教授）

タイトル：李登輝の対日観におけるアジア主義の考察

報告者 3：深 串徹（島根県立大学准教授）

タイトル：馬英九の外交思想と対日政策

討論者：武藤 秀太郎（新潟大学教授）；深町 英夫（中央大学教授）

アジア政経学会第 24 回春季大会（神奈川大学みなとみらいキャンパス）の自由応募分科会 2 では、戦後台湾のトップ・リーダーたちの対日認識と政策について、国民党を中心に報告した。約 40 名の参加者があった。

はじめに司会者の李 鋼哲（東北亜未来構想研究所）が本分科会のテーマと全体の研究プロジェクトの経緯を紹介した。

本分科会は三つの報告により構成され、蒋介石、李登輝、馬英九を研究対象とし、それぞれの指導者の対日観を分析するものである。

段 瑞聡会員（慶應大学）は佐藤栄作の台湾訪問の目的や意義、蒋介石や国府の対応について考察し、蒋介石の対日認識を明らかにした。段会員は「蒋介石日記」と『佐藤栄作日記』と公式文書を比較することで、蒋介石と佐藤栄作の相手側への認識や政治指導の特徴が明らかになると指摘した。

日本留学経験をもつ蒋介石にとって、明治維新を経て近代国家になった日本は学ぶべき手本である。しかし、日清戦争、とりわけ日中戦争を自ら経験した蒋介石にとっては、日本は百パーセント信頼できるパートナーではなかった。

蒋介石のアジア意識、反帝国主義意識は、彼の日本認識にも影響を及ぼしていることを論じた。

討論では、武藤 秀太郎会員（新潟大学）は蒋介石が佐藤栄作と会談した際、日本との間に核開発の平和的利用を提案したが、蒋介石がどれほど本気だったのかと問い、当時

蔣介石は本気で日本の核技術の利用を望んでいたと考えられるとの回答があった。

深町 英夫会員（中央大学）からは、蔣介石は晩年まで日本留学時代からのような日本に対する認識を維持していたかと質問され、「蔣介石日記」によると、晩年の蔣介石にとって、日本は学ぶべき手本であったとの回答であった。

陳 柏宇会員は李登輝の対日観について報告した。日本教育を受けた李登輝は日本人アイデンティティが強いと考えられる。それは李登輝の対日観にも反映されていることを論じた。

李登輝は日本が先頭に位置し、アジア経済成長を引き起こす「雁行モデル」を強調している。アメリカと台湾の関係を重視するよりも、日本と台湾の連携を願い、日本が自信喪失からの脱却を志し、アジアのリーダーシップを取るべきだと主張した。

陳会員は、李登輝の外交思想には日本型のアジア主義が内蔵され、ほかの台湾指導者と区別がつくと指摘した。

討論では深町会員より、対日認識の言説における多面性から見る孫文と李登輝の共通点があげられた。

深串 徹会員（島根県立大学）の報告では、2008年～2016年に台湾の総統を務めた馬英九の外交思想とそれに基づいた対日政策を検討した。

「和衷、友日、親米」を対外政策の軸として掲げた馬英九政権は、任期中に日台間の実務関係を大きく進展させた。日本との関係を「特別なパートナーシップ」と位置づけ、経済や文化の交流を拡大させたほか、長年の懸案であった漁業問題についても、日台漁業取り決めの締結により日本側と一定の合意に達している。

2011年の東日本大震災発生後には台湾のテレビ番組に出演して、募金活動に参加したこともある。馬英九の外交思想は対外問題に関する「法律家的・道徳家的アプローチ」と、「中華民国ナショナリズム」の二つによって特徴づけられるものであったことを指摘した。

討論では、武藤会員からは馬英九が慰安婦問題を重視した理由について質問され、馬英九は法律家であり、人権や法治などの普遍的な価値を重んじる彼個人の選好が関係していたとの回答があった。

深町会員からは台北市長選に出馬した馬英九に対し、李登輝が「新台湾人」と言ったことがあるが、この概念と「中華民国ナショナリズム」との間で矛盾はないかと質問され、馬英九は台湾アイデンティティを「中華民国ナショナリズム」の中に取り込むことを目指していたため、矛盾するものではなかったとの回答であった。

総合討論では、平川 均会員から、人物や思想に関する研究では、日記や一般公開資料だけでいいのか？という質問があった。

小笠原 欣幸会員が、岸信介と佐藤栄作の台湾との関係が安倍晋三によって、蔣介石と蔣経国の日本との関係が李登輝によって継承されていることを指摘した。

兪 敏浩会員が三つの報告の異なるアプローチと焦点がコメントした。フロアから活発な質問やコメントがあり、今後の研究に資する有意義な内容となった。

(以上)